

平成19年度第2回

かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要	
調査設計等	●調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ●調査方法 郵送法
	●標本数 3,000 標本 ●調査期間 平成19年11月1日(木)～11月16日(金)
	●標本抽出 住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出 ●有効回収数 1,309 標本 ●有効回収率 43.6%
調査項目	① 定住状況について
	② 生活環境の評価について
	③ 関心ごとと行動範囲について
	④ 市政に対する評価と要望について
	⑤ サービス産業に対する消費について
	⑥ 歯の健康について
	⑦ 広報活動について
	⑧ 建物の高さの制限について
	⑨ タウンミーティングについて

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100%にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数	構成比
1 男性	565	43.2%
2 女性	708	54.1
(無回答)	36	2.8
合計	1,309	100.0

2 年齢・性／年齢

	全体		男性		女性		無回答	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
1 20歳代	137	10.5%	58	10.3%	79	11.2%	-	-%
2 30歳代	284	21.7	115	20.4	168	23.7	1	2.8
3 40歳代	273	20.9	134	23.7	138	19.5	1	2.8
4 50歳代	220	16.8	100	17.7	120	16.9	-	-
5 60歳代	238	18.2	102	18.1	135	19.1	1	2.8
6 70歳以上	123	9.4	55	9.7	67	9.5	1	2.8
(無回答)	34	2.6	1	0.2	1	0.1	32	88.9
合計	1,309	100.0	565	100.0	708	100.0	36	100.0

1 定住状況について

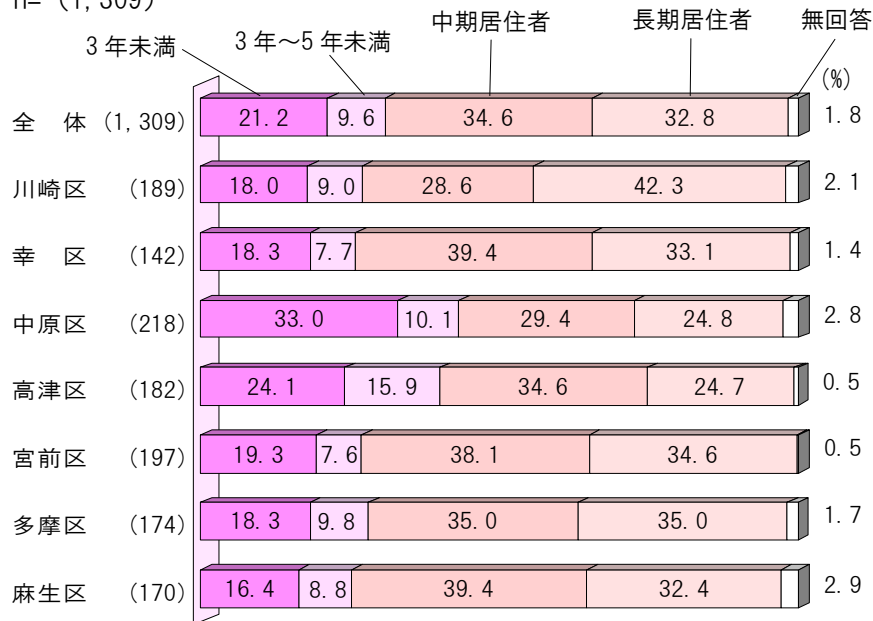
1 居住年数

居住年数を聞いた。居住区別でみると、＜長期居住者※¹＞は、川崎区（42.3%）が4割を超えて最も高く、＜中期居住者※²＞は幸区（39.4%）、麻生区（39.4%）が約4割と高くなっている。一方、「3年未満」は中原区が3割を超えて最も高くなっている。

※1 長期居住者・・・居住年数が20年以上

※2 中期居住者・・・居住年数が5年以上～20年未満

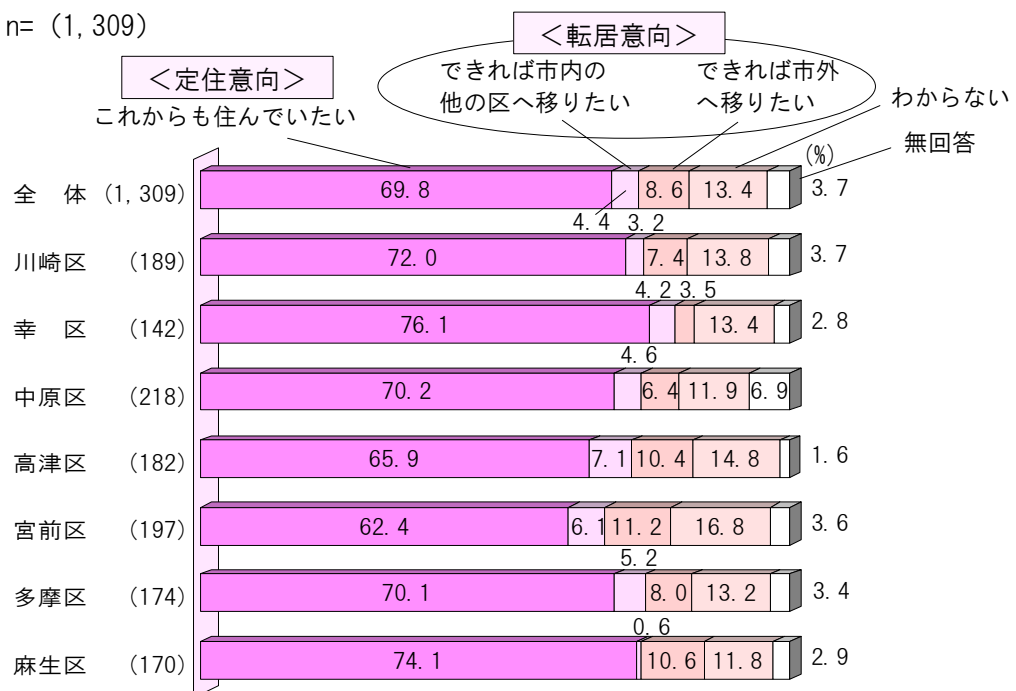
図1 n = (1,309)



2 定住意向

定住意向を聞いた。居住区別でみると、＜定住意向＞は、いずれの居住区でも6割から7割台で「できれば市内の他の区へ移りたい」と「できれば市外へ移りたい」をあわせて＜転居意向＞を大きく上回っている。＜転居意向＞は高津区（17.5%）、宮前区（17.3%）が2割近くとなっている。

図2 n = (1,309)

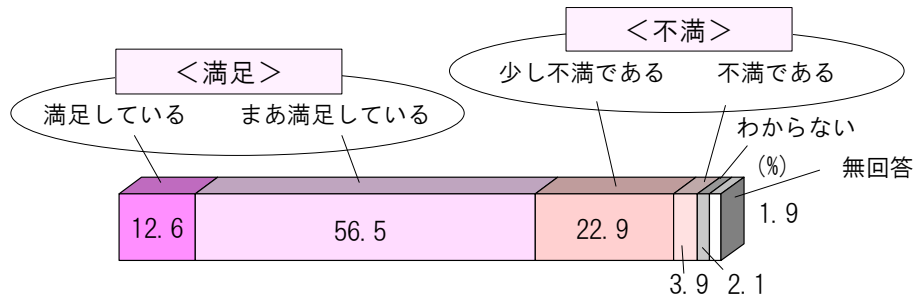


2 生活環境の評価について

1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(12.6%)と「まあ満足している」(56.5%)をあわせて<満足>は約7割となっている。一方、「少し不満である」(22.9%)と「不満である」(3.9%)をあわせて<不満>は2割台半ばとなっている。

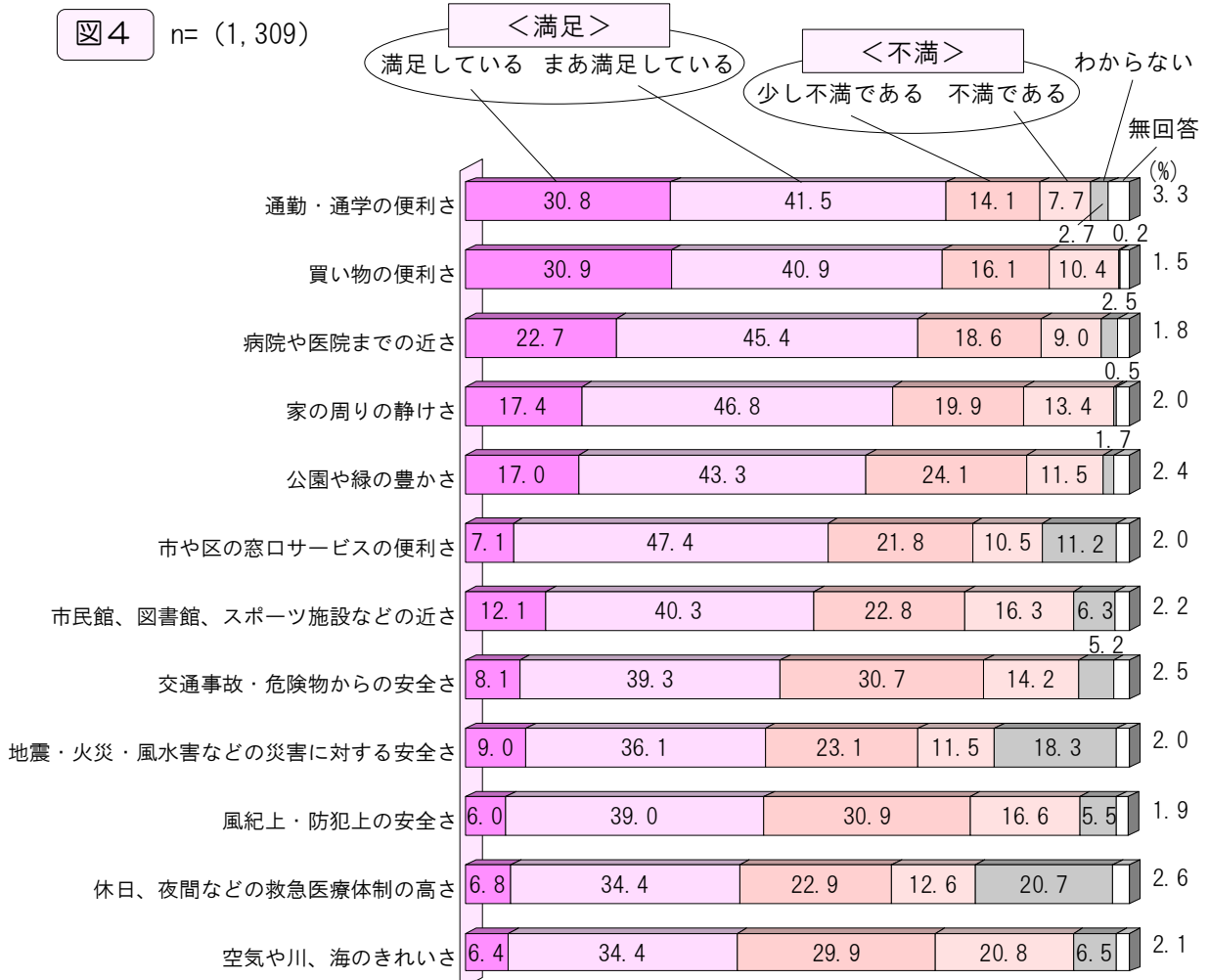
図3 n = (1,309)



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。<満足>が高いものは「通勤・通学の便利さ」(72.3%)、「買い物の便利さ」(71.8%)、「病院や医院までの近さ」(68.1%)、「家の周りの静けさ」(64.2%)、「公園や緑の豊かさ」(60.3%)などとなっている。

図4 n = (1,309)

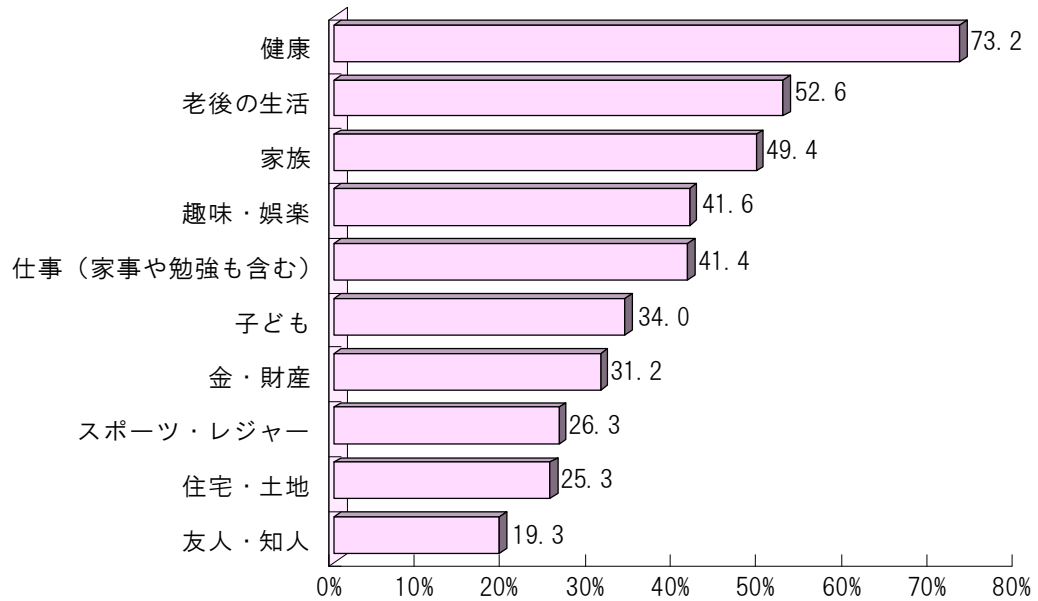


3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(73.2%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで「老後の生活」(52.6%)、「家族」(49.4%)、「趣味・娯楽」(41.6%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(41.4%)という順になっている。

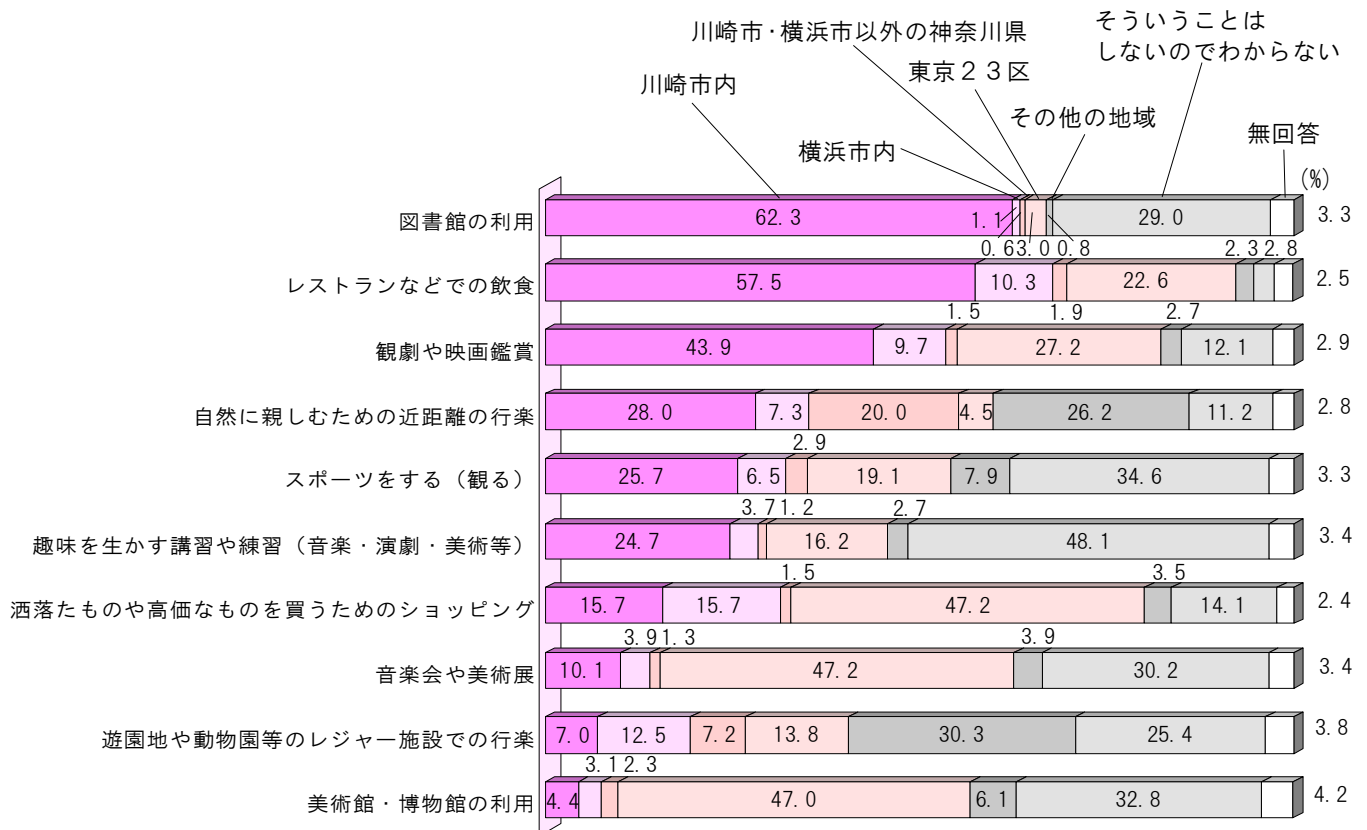
図5 (複数回答、上位10項目) n= (1,309)



2 行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所

行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(62.3%)、「レストランなどでの飲食」(57.5%)、「観劇や映画鑑賞」(43.9%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(28.0%)となっている。一方、『東京23区』の利用率が高い項目は、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(47.2%)、「音楽会や美術展」(47.2%)、「美術館・博物館の利用」(47.0%)となっている。

図6 n = (1,309)

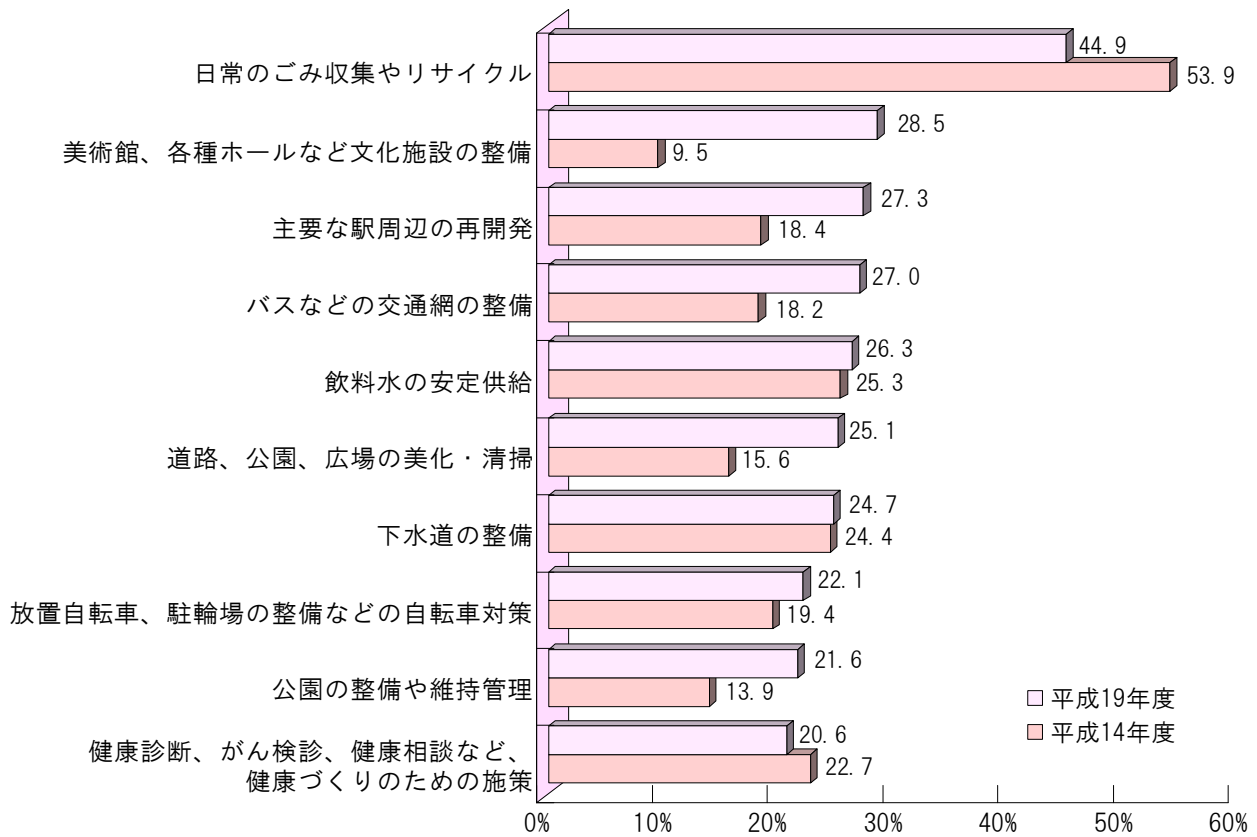


4 市政に対する評価と要望について

1 市の施策でよくやっていると思うこと

市の施策でよくやっていると思うことを聞いた。5年前と比較してみると、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(28.5%)は19ポイントと大きく増加し、「道路、公園、広場の美化・清掃」(25.1%)は9.5ポイント、「主要な駅周辺の再開発」(27.3%)は8.9ポイント、「バスなどの交通網の整備」(27.0%)は8.8ポイントの増加となっている。一方、「日常のごみ収集やりサイクル」(44.9%)は9ポイントの減少となっている。

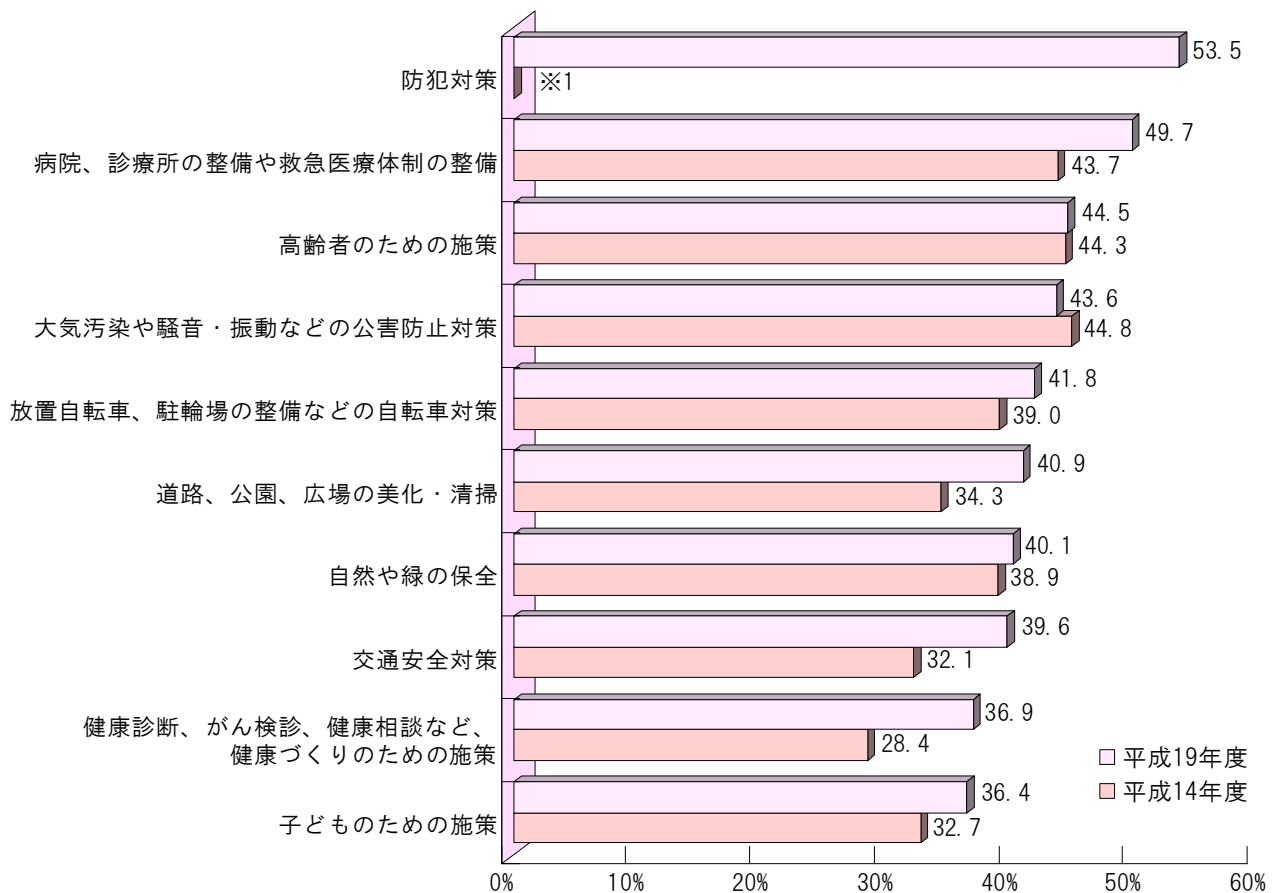
図7 (複数回答、上位10項目、平成14年度との比較) n= (1,309)



2 市の施策で今後特に力を入れてほしいこと

市の施策で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「防犯対策」(53.5%)は5割を超え最も高くなっている。5年前と比較してみると、全体的に増加した項目が多い中で、特に「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(36.9%)は8.5ポイント、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(49.7%)は6ポイント増加し、健康や医療に関する施策の増加が目立っている。また、「交通安全対策」(39.6%)は7.5ポイント、「道路、公園、広場の美化・清掃」(40.9%)は6.6ポイントの増加となっている。

図8 (複数回答、上位10項目、平成14年度との比較) n= (1,309)



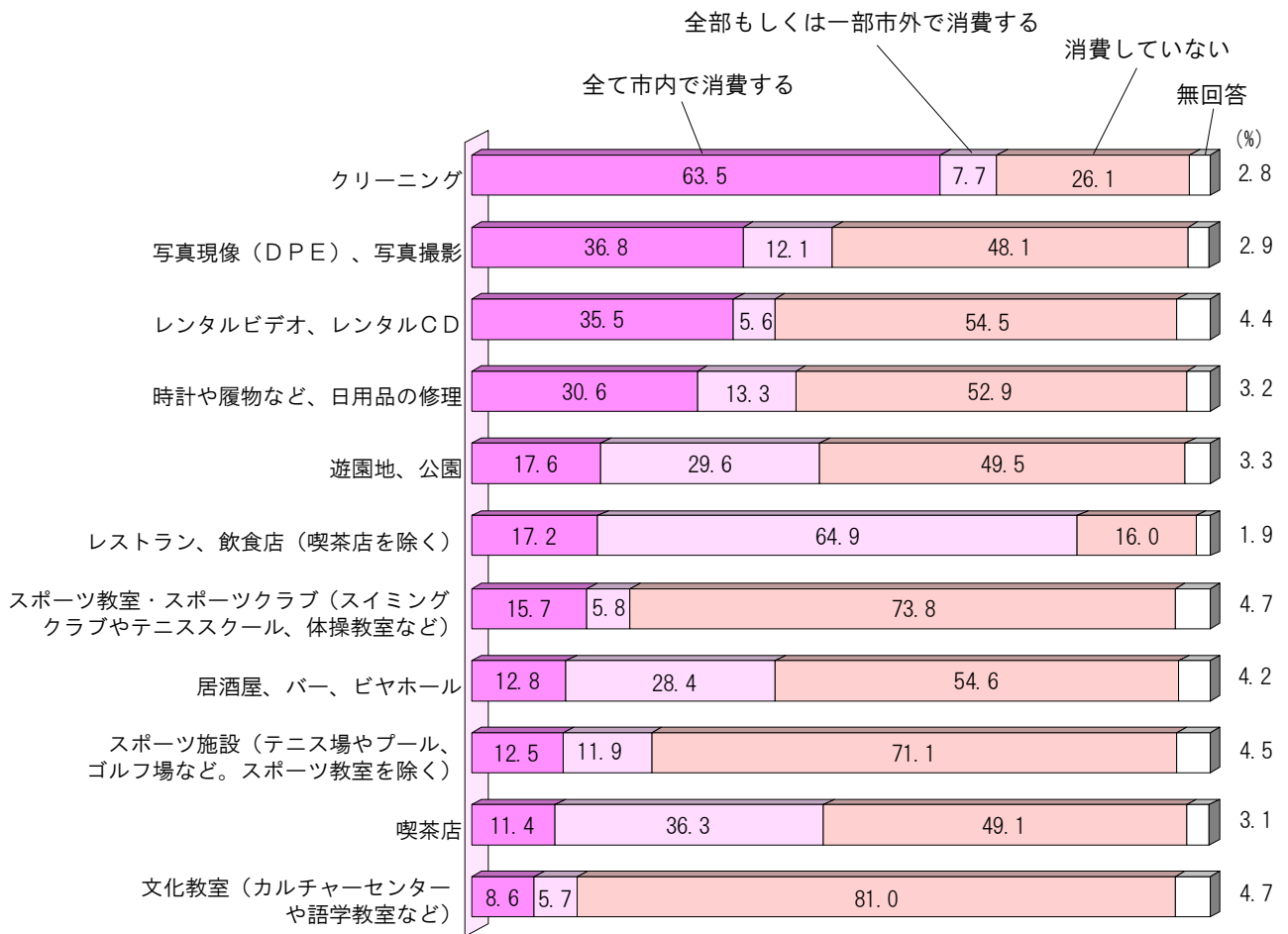
※1 「防犯対策」は、平成18年度から新たに追加した項目のため比較対象外

5 サービス産業に対する消費について

1 1 か月間の市内での消費状況

サービス産業に対する消費について、1 か月間の市内での消費状況を聞いた。『全て市内で消費する』は、「クリーニング」(63.5%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで「写真現像(DPE)、写真撮影」(36.8%)、「レンタルビデオ、レンタルCD」(35.5%)、「時計や履物など、日用品の修理」(30.6%)という順になっている。『全部もしくは一部市外で消費する』は、「レストラン、飲食店」(64.9%)が6割台半ばで高くなっている。

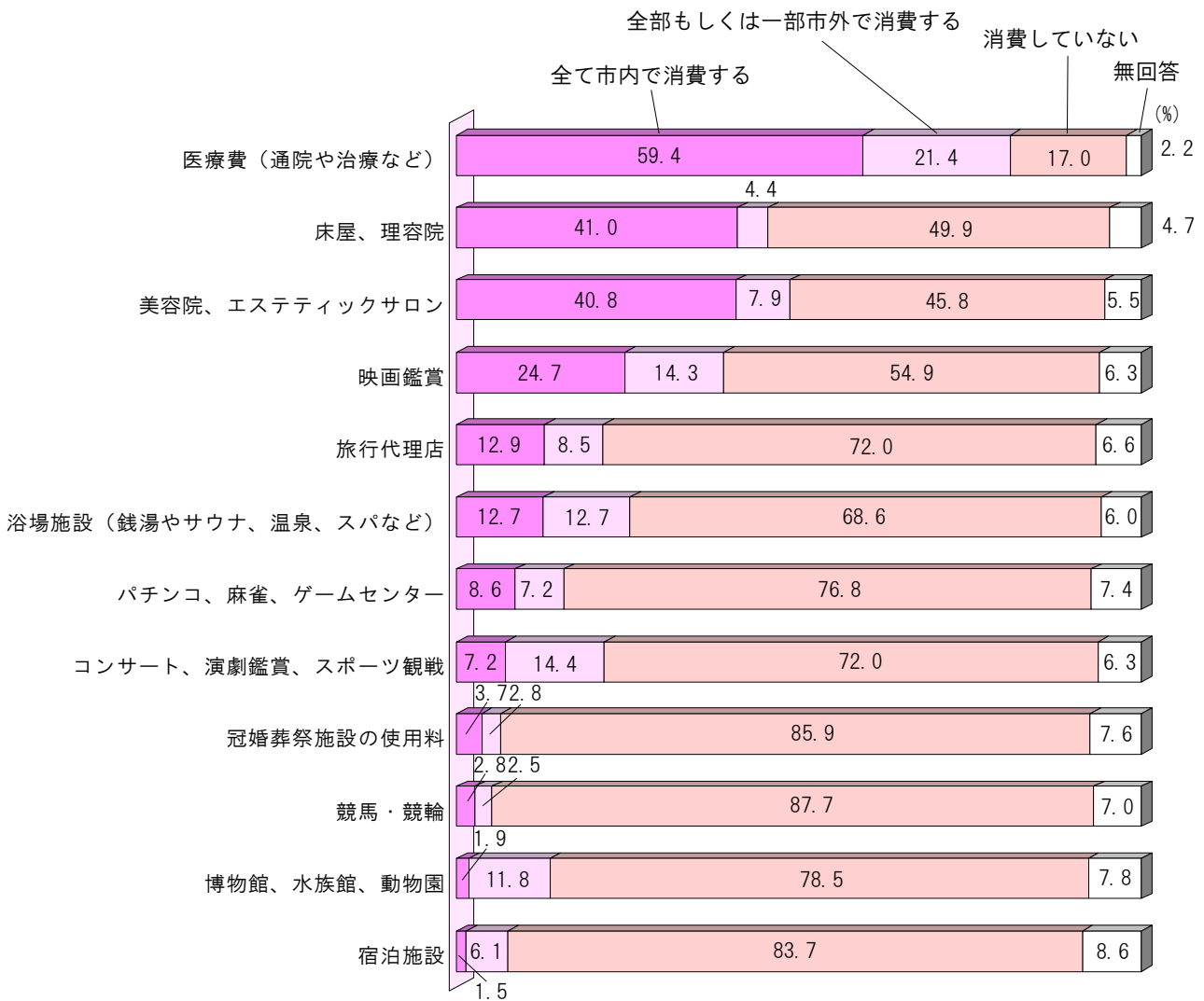
図9 n = (1,309)



2 半年間の市内での消費状況

サービス産業に対する消費について、半年間の市内での消費状況を聞いた。『全て市内で消費する』は、「医療費」(59.4%)が約6割で最も高くなっている。次いで「床屋、理容院」(41.0%)、「美容院、エステティックサロン」(40.8%)、「映画鑑賞」(24.7%)という順になっている。『全部もしくは一部市外で消費する』は、「コンサート、演劇鑑賞、スポーツ観戦」(14.4%)、「博物館、水族館、動物園」(11.8%)、「宿泊施設」(6.1%)が『全て市内で消費する』を上回っている。

図 10 n = (1, 309)



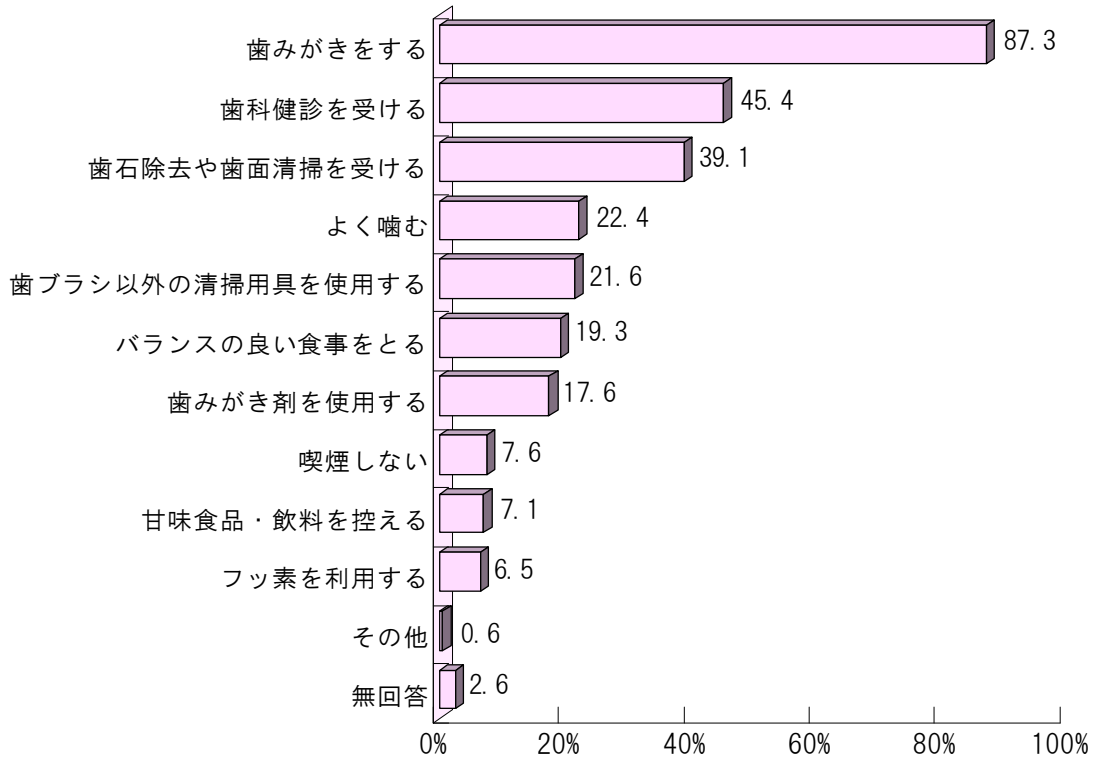
6

歯の健康について

1 歯の健康のために有効だと思う手段

歯の健康のために有効だと思う手段を聞いた。「歯みがきをする」(87.3%)が9割近くで最も高くなっている。次いで「歯科健診を受ける」(45.4%)、「歯石除去や歯面清掃を受ける」(39.1%)、「よく噛む」(22.4%)という順になっている。

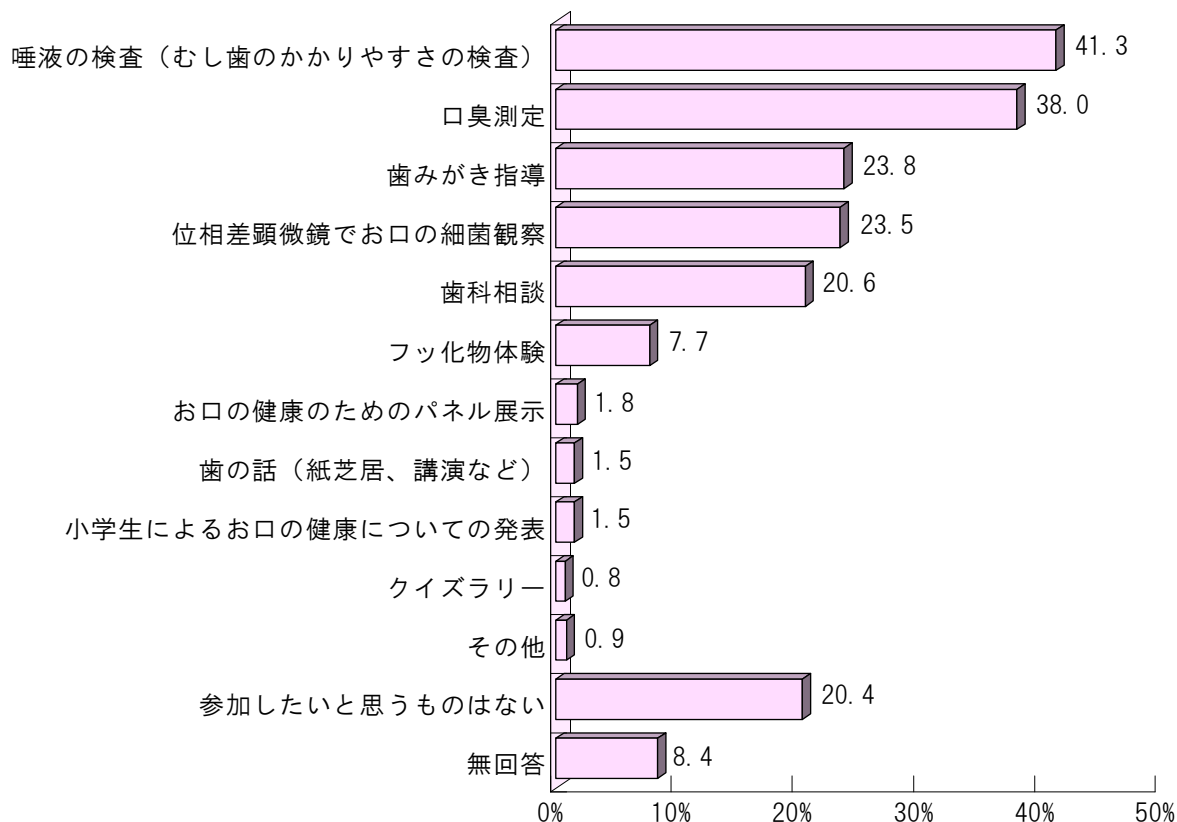
図 11 (複数回答) n= (1, 309)



2 「歯の健康フェア」で参加したいと思うもの

『歯の健康フェア』で参加したいと思うものを聞いた。「唾液の検査（むし歯のかかりやすさの検査）」（41.3%）が約4割で最も高くなっている。次いで「口臭測定」（38.0%）、「歯みがき指導」（23.8%）、「位相差顕微鏡でお口の細菌観察」（23.5%）、「歯科相談」（20.6%）という順になっている。

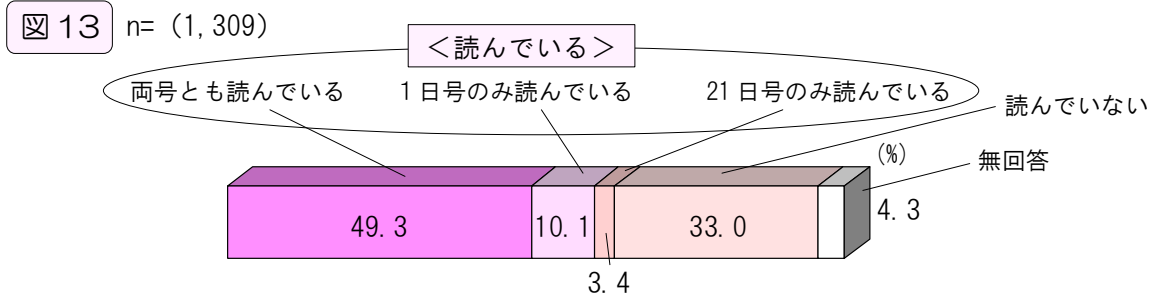
図12 （複数回答）n=（1,309）



7 広報活動について

1 「かわさき市政だより」の閲覧状況

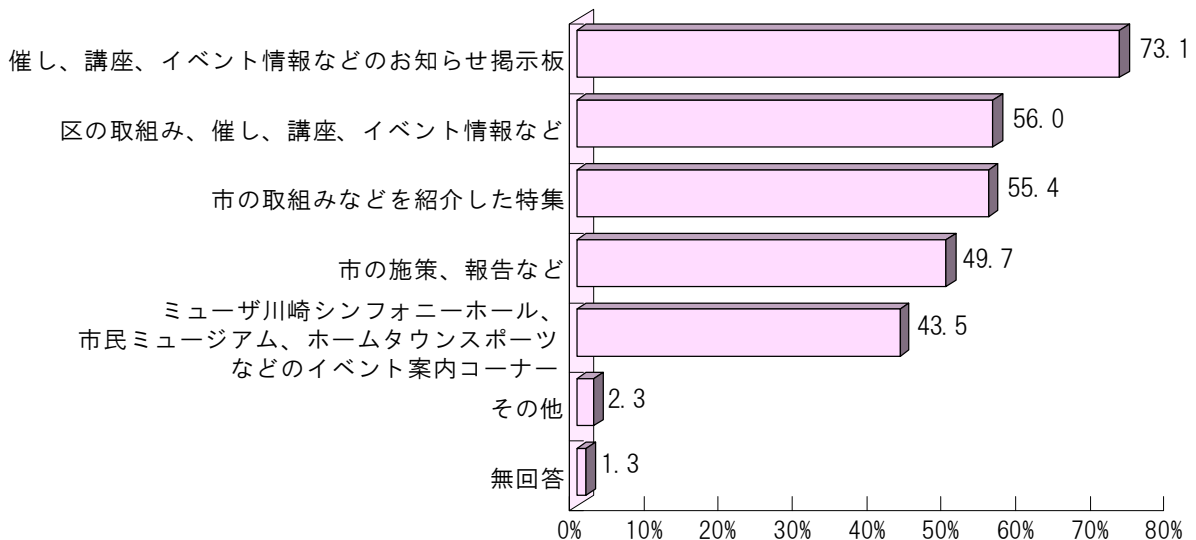
『かわさき市政だより』の閲覧状況を聞いた。「両号とも読んでいる」(49.3%)、「1日号のみ読んでいる」(10.1%)と「21日号のみ読んでいる」(3.4%)をあわせて<読んでいる>は6割を超えている。



1-1 「かわさき市政だより」で読んでいる記事

『かわさき市政だより』を<読んでいる>と答えた人に読んでいる記事を聞いた。「催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板」(73.1%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで「区の実り、催し、講座、イベント情報など」(56.0%)、「市の取組みなどを紹介した特集」(55.4%)という順になっている。

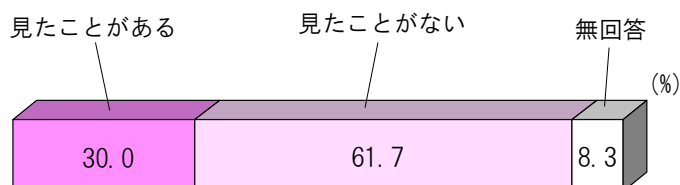
図 14 (複数回答) n = (821)



2 川崎市ホームページの閲覧状況

川崎市ホームページの閲覧状況を聞いた。「見たことがある」(30.0%)は3割、「見たことがない」(61.7%)は約6割となっている。

図 15 n = (1,309)

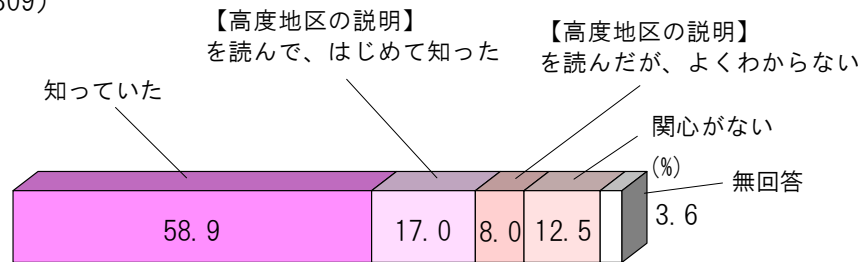


8 建物の高さの制限について

1 高度地区の認知状況

高度地区（建築物の高さの制限）の認知状況を聞いた。「知っていた」（58.9%）は約6割となっている。「（アンケート用紙に掲載の）【高度地区の説明】を読んで、はじめて知った」（17.0%）は1割台半ばとなっている。

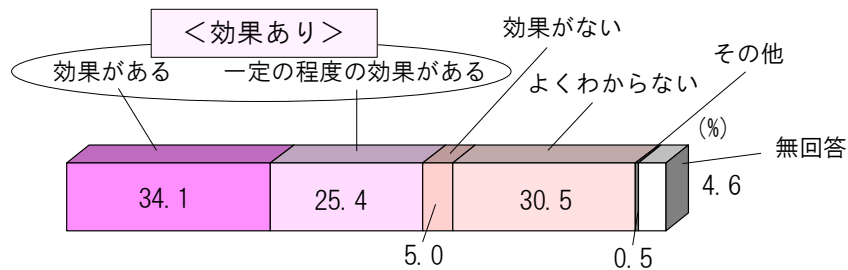
図 16 n = (1,309)



2 高度地区の「良好な街並みづくり」への効果について

高度地区（建築物の高さの制限）の「良好な街並みづくり」への効果について聞いた。「効果がある」（34.1%）と「一定の程度の効果がある」（25.4%）をあわせて〈効果あり〉は約6割となっている。

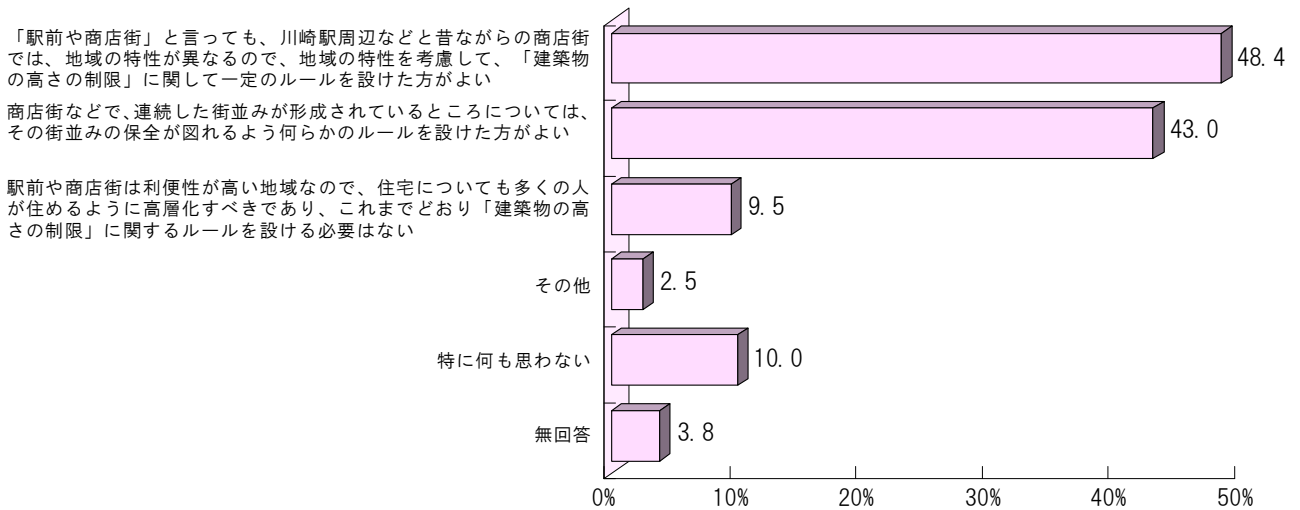
図 17 n = (1,309)



3 「商業地域」や「近隣商業地域」に高度地区を指定することについて

駅前や商店街に高層マンションの立地が増えることによって商業地域などの街並みが変わってくることから、「商業地域」や「近隣商業地域」に高度地区を指定することについて聞いた。「『駅前や商店街』と言っても、川崎駅周辺などと昔ながらの商店街では、地域の特性が異なるので、地域の特性を考慮して、『建築物の高さの制限』に関して一定のルールを設けた方がよい」（48.4%）が5割近くで最も高くなっている。次いで「商店街などで、連続した街並みが形成されているところについては、その街並みの保全が図れるよう何らかのルールを設けた方がよい」（43.0%）が4割台前半となっている。

図 18 (複数回答) n = (1,309)

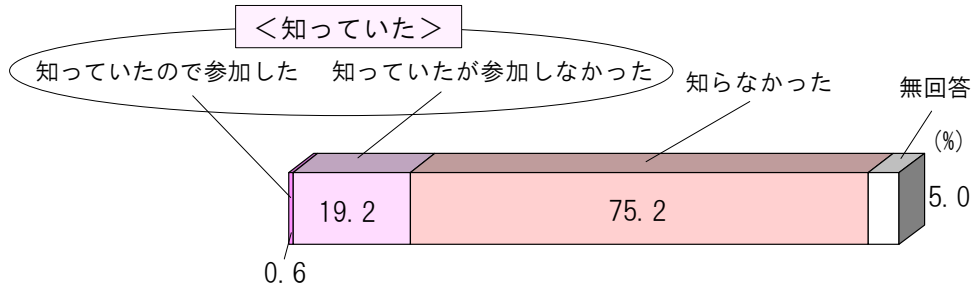


9 タウンミーティングについて

1 タウンミーティング開催の認知状況及び参加の有無

タウンミーティング開催の認知状況及び参加の有無を聞いた。「知っていたので参加した」(0.6%)と「知っていたが参加しなかった」(19.2%)をあわせた<知っていた>は約2割となっている。

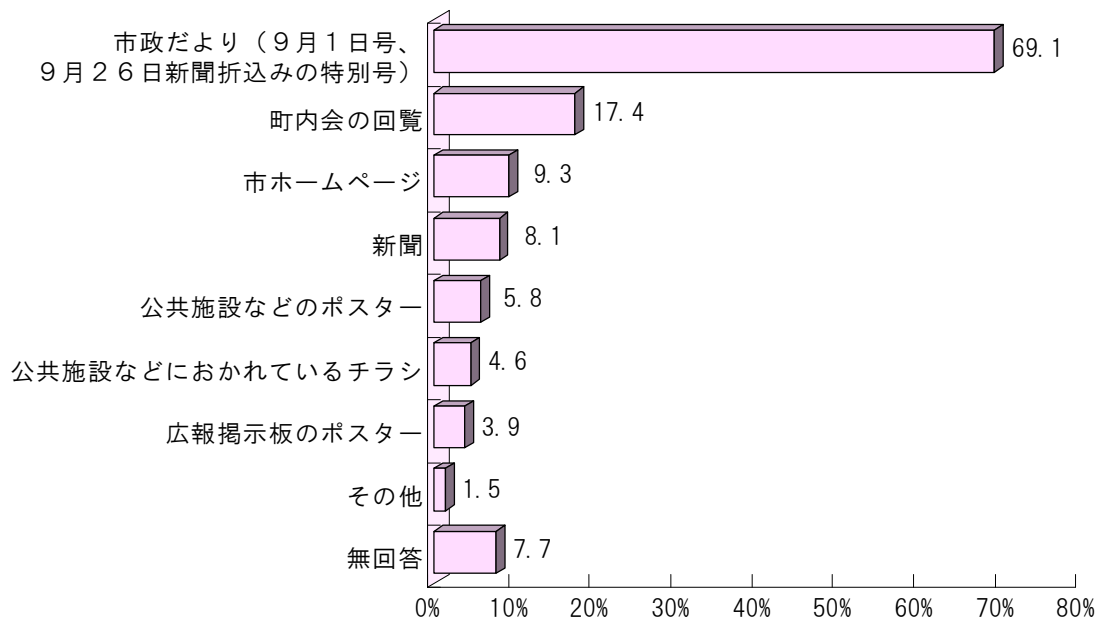
図 19 n= (1, 309)



1-1 タウンミーティング開催情報の入手先

タウンミーティング開催を<知っていた>と答えた人に開催情報の入手先を聞いた。「市政だより(9月1日号、9月26日号新聞折込みの特別号)」(69.1%)が約7割で最も高くなっている。

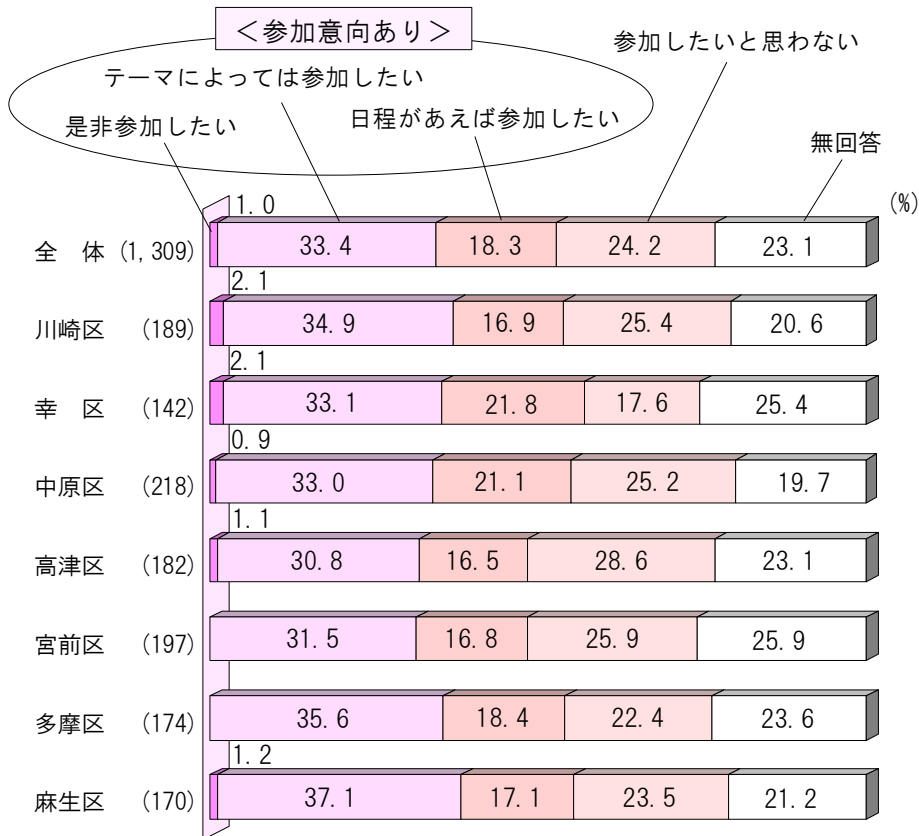
図 20 (複数回答) n= (259)



2 タウンミーティングへの参加意向

タウンミーティングへの参加意向を聞いた。居住区別でみると、「是非参加したい」、「テーマによっては参加したい」と「日程があれば参加したい」をあわせて＜参加意向あり＞は幸区（57.0%）が6割近くで最も高くなっている。次いで、麻生区（55.4%）、中原区（55.0%）、多摩区（54.0%）という順になっている。

図 21 n = (1,309)



平成19年度第2回かわさき市民アンケート概要版

平成20年3月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当
〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2292

FAX 044-200-3919